

[課程-2]

審査の結果の要旨

氏名 秋月 百合

本研究は、不妊治療患者(不妊女性)が経験する Positive social interactions (PSI) および Negative social interactions (NSI) をソース別(夫、実親、夫の両親、友人・その他)に測定する尺度を開発し、それらと不妊女性の精神的健康との関連を明らかにすることを目的に行われたものであり、以下の結果を得ている。

まず不妊女性を対象とした2回の質問紙調査(研究1)において、不妊女性が経験する PSI および NSI をソース別に測定する尺度(夫 PSI、夫 NSI、実親 PSI、実親 NSI、夫の両親 PSI、夫の両親 NSI、友人・その他 PSI、友人・その他 NSI)の開発を試みた。項目削除基準をもとに項目の精選を行った結果、いずれの尺度も1因子構造であり、 α 係数やテスト-リテスト相関係数の結果から、一定の信頼性と妥当性のある使用可能な尺度であることが確認できた。

次に不妊女性を対象とした質問紙調査(研究2)において、ソース別 PSI および NSI の不妊女性の抑うつに対する主効果を重回帰分析にて検討した。その結果、いずれのソースの PSI も抑うつと有意な負の関連を示さなかったが、NSI については、実親をのぞく友人・その他 NSI、夫 NSI、夫の両親 NSI において抑うつと有意な正の関連を示し、NSI を経験している女性ほど高い抑うつ傾向が示された。ソース別 PSI および NSI の交互作用については、夫 NSI と夫の両親 NSI において抑うつへの交互作用効果が認められ、夫 NSI 低群では夫の両親 NSI は抑うつを高めなかったが、夫 NSI 高群においては夫の両親 NSI が抑うつを高め、夫 NSI および夫の両親 NSI ともに高い不妊女性が特段高い抑うつ傾向を示した。

以上、本論文では、不妊女性が経験する PSI および NSI をソース別に測定するための、一定の信頼性と妥当性が確認された使用可能な尺度群を開発した。そしてそれらと不妊女性の抑うつとの関連を検討し、抑うつへの影響の仕方は PSI と NSI では異なり、さらにはソースによって異なることを明らかにし、NSI は不妊女性の精神的健康における阻害要因となりうることを示唆した。本研究は、不妊女性が経験する PSI および NSI と彼らの精神的健康との関連についてソース別、体系的かつ数量的に実証を試みた初めての研究であり、保健医療分野において、不妊女性のための支援的な対人環境のあり方を検討する上での貴重な知見となり得ると考えられることから、学位の授与に値するものと考えられる。